

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト 実施報告書

報告日	平成30年2月23日(金)
主管学校名	山形大学附属幼稚園
PTA会長名	長谷川 吉之介

実施概要	主管校	山形大学附属幼稚園
	交流校	山形大学特別支援学校
	実施活動名	もっと もっと なかよくなるろう！(交流活動・バザー参加&メンテナンス)
	実施日時	平成29年6月21・22・23日(交流) 10月30・31・11月1日(交流) 11月27日(バザー) 平成30年1月30日(交流) 2月22日(メンテナンス)
	実施場所	山形大学附属幼稚園・山形大学特別支援学校
	実施目的	本園の園児、保護者と職員が数年にわたり築いてきた特別支援学校の児童、生徒、職員との交流を継続し協力することで互いに理解を深め合う。
	実施内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援学校の小学部児童と本園の園児との遊びを通じた交流 2. 本園の園児、保護者の特別支援学校高等部製品バザーへの参加 3. 園児が使用するベンチ、多目的ラックなどの購入 4. これまで購入した製品のメンテナンス、修繕 5. 昨年度より行っている製品開発
実施方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援学校の小学部児童と、本園の園児と児童が互いに訪問し、初夏と秋、冬も3回(7日間)、水遊びやそり滑りなどの季節の遊びを通しながら交流を図る。(今年度は園児も支援学校を訪れる) 2. 園児とその保護者がバザーに参加し、高等部の生徒の製品を購入する。 3. 園で使用使用するベンチ、多目的ラックなどを購入する。 4. 特別支援学校の高等部の生徒が来園し、今までに購入した製品のメンテナンス、園児や職員の要望をもとに、新しい製品の開発を行う。 	
参加人数	幼稚園園児、保護者、特別支援学校児童、生徒、職員 約200名	

報告事項	内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援学校小学部低学年と本園の園児が特別支援学校と本園を年3回(初夏・秋・冬)行き来し、親睦を深め交流をはかった。 2. 特別支援学校高等部主催のバザーに本園の年中児がバスを利用し参加した。園児は各自100円を持参し、特別支援学校高等部の生徒が手作りした商品(アクリルたわし、巾着、木工製品など)を購入した。 3. 特別支援学校高等部のバザーで多目的ラックやベンチを購入した。 4. 特別支援学校の高等部生徒が来園し、今まで購入した製品のメンテナンスを行った。 5. マルチラックの天板を増やすなど幼稚園からの要望を取り入れてもらった。
	結果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 園児と特別支援学校の児童が全7回の交流で回数を重ねるごとに交流が深まり、児童らと楽しいひとときを共有した。最後の特別支援学校で行ったそり滑りでは、特別支援学校の生徒が本園の園児を手助けする場面も見られた。 2. 園児は100円(10円玉10枚)を持ち、バスに乗ってバザーに参加した。園児たちは高等部の生徒から声をかけてもらいながら買い物を楽しんだ。どの製品も大変丁寧に作られていて、高等部の生徒が心を込めて作ったのが伝わってきた。 3. 園児が使用するものなので、安全面が一番に考慮されており、サイズなども使いやすいオリジナルのもので毎年、大変重宝している。 4. 毎日使用しているベンチやラックの修繕している様子が見られ、ものを大切に使う気持ちが育まれた。 5. 高等部の生徒に実際に園児が使用しているところを見てもらい、新製品の開発の参考にしてもらった。
	所感	園児は普段、特別な支援を必要とする方々と接する機会が少ないため、相互の理解を深める貴重な経験となった。最初は遠慮していた子どもたちが、回を重ねるごとに仲良くなっていく様子が見られ、互いを尊重する気持ちを持つことができた。今年度もカンガルーシップ活動助成金事業により、大変有意義な交流活動ができたことに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

添付書類	実施報告書掲載可
------	----------



カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日	平成30年2月23日(金)
学校名	山形大学附属幼稚園
学年	

～ 園児の声 ～

◎交流活動について

- ・一緒に遊んで楽しかった。
- ・そりのお山が、幼稚園の山より大きくて楽しかった。
- ・バイバイするときさみしかった。
- ・お名前を覚えたよ。また会えるかな。

◎バザーについて

- ・リンゴの形のたわしだよ。
- ・ママへのお土産だよ。
- ・いろいろな色のたわしがあってきれい！
- ・3つも買えたよ！
- ・こんなのが作れてお兄さんすごい！

◎修繕・製品開発について

- ・大きい音でびっくりした！
- ・お兄さんとトントンしたよ！
- ・機械を使ってすごい！
- ・パパも同じことをやってたよ。

～ 特別支援学校高等部 生徒の声 ～

- ・幼稚園の子が喜んでくれてうれしいです。
- ・製品をほめてもらえてうれしかった。
- ・幼稚園で使ってくれてありがとう！
- ・これからも頑張って作るね！

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日 平成30年2月23日(金)

学校名 山形大学附属幼稚園

◎交流活動について

- ・今年度から、本園だけでなく特別支援学校にも訪問し、交流する機会を増やした。
- ・特別支援学校に訪問した際、喜んで迎えてくれ園児たちもとてもうれしそうだった。
- ・初夏にはお互いに遠慮がちだったが、冬には再会を喜ぶ様子が見られた。
- ・高いところの上で下りられなくなった児童を園児が手助けする様子や、滑り台が滑れない児童をどうして下りられないのか一緒に考える園児等、優しさが多く見られた。
- ・回数を重ねるごとに一緒に遊ぶ姿が多く見られた。

◎バザーについて

- ・園児は、自分の財布を持ち、買い物をするのが楽しそうだった。
- ・商品は、丁寧に作られており、いろいろな色やバリエーション豊かなものが多く、園児たちも目移りしていた。
- ・商品を入れる袋も英字新聞で手作りされており、商品を入れてもらい喜んでいた。
- ・高等部の生徒は園児に積極的に声をかけてくれていた。
- ・商品は低価格の設定だったため、複数の買い物ができ喜んでいた。
- ・自分のものだけでなく、家族へのお土産を購入する様子も見られ、微笑ましかった。

～ 保護者の声 ～

- ・完成度の高い製品が低価格で売られていてたくさん購入しました！
- ・子どもたちの手助けをしてくれている様子が見られ、うれしかった。
- ・英字新聞の買い物袋が上部でおしゃれでよかった。
- ・商品一つ一つ可愛くラッピングされていた。

◎修繕・製品開発について

- ・修繕の様子を見て、遊びでまねする園児の様子が見られた。
- ・園児の前で修繕することにより、ものを大切に使う気持ちを学んだ。
- ・園児が使うことを想定し、角が丸く削られ、釘がでないように工夫されていた。
- ・マルチラックは、保育室や遊びのなかで様々な活用の仕方があり、有効利用できている。

～ 保護者の声 ～

- ・ベンチやラック一つ一つ工夫されていて感動しました。
- ・子どもたちに作っている過程を見せられたのがいい機会だった。
- ・我が家でも壊れたら捨てるのではなく、直せるものは直して使おうと思った。
- ・木製の温かみを感じた。